



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

# TECH未来通信

2022.MAY/JUN  
VOL.50



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階  
042-316-6645 [info@techmirai.jp](mailto:info@techmirai.jp)

## TECH未来INNOVATIVE CONTEST 2022を終えて

TECH-mirai INNOVATIVE CONTEST 2022(活用カ  
ンテスト9)が終了しました。

今回は47作品が提出されました。たくさんのご参加ありが  
とうございました。今回の通信は、審査員の方々からの総評  
(一部)を掲載させていただきます。

本当に一人一人が自分事の問題を見つけて、自分なりに工  
夫して、作品を仕上げる様子を見ていて、どの作品についても  
全く同じものはありません。本当に、TECH未来を技術分野  
の教材に取り入れたいと思った当時の思いが、皆さんの作品  
に現れていて、心から感動しました。また、動画の制作につ  
いても大変工夫されていて、このような動画の制作、さらには  
作品の製作と技術分野でしかできないコンテストの特徴が  
表れていました。

東京学芸大学大学院 教授 大谷忠先生

作品のテーマについては、様々な課題意識があることがわ  
かりました。動力伝達の仕組みには、歯車やベルトなどが多く  
使われていましたが、カムやクランクシャフトなどを使った作  
品が印象に残りました。これからも問題意識と仕組みの知識  
などを結び付けたアイデアを考えてみてください。

広島大学大学院 准教授 谷田親彦先生

生活や社会の中から見いだした問題を解決するために、ど  
のような製品を開発すべきかを検討し、それを実現するた  
めに、動力源の力やスピード、向きを適切に変換している作品は

かりでした。加えて、使われる場面を踏まえて本体の形状や構  
造、スイッチを工夫するなど、使用者のことを考えて開発し  
ていることにも感心させられました。

文部科学省 教科調査官 渡邊茂一先生

日常の学校生活から問題を発見し、黒板消しを綺麗にするこ  
とが黒板を綺麗にすることにつながる問題解決になっている  
。環境美化に役立つロボットは、テーマに一致しており、1  
モーターで全ての可動部を動かす機構の工夫も実用化でき  
るモデルであると感じました。

東京学芸大子ども未来研究所 教育支援フェロー  
全日本中学校技術・家庭科研究会顧問 三浦登先生

コロナ禍でもあり、感染対策の作品が多く見られましたが、  
どれもどうやって非接触を実現しようかと工夫していて、生徒  
のアイデアの柔軟さに感動しました。感染対策以外の実用的  
な作品も、問題と課題を明確にしており、TECH未来の部品を  
上手に組み合わせて動作を安定させていたように感じました。

厚木市立藤塚中学校 尾崎誠先生

現場の先生方の丁寧なご指導や、生徒さんたちとの良質なコ  
ミュニケーションも、細部に感じることができました。いつか  
本当にTECH未来活用カコンテストから人々の生活に役立つ  
商品や世に出せる発明家が輩出されるのではないかと大き  
きな夢を感じました。

(株)おもちゃ王国 高谷昌宏さま

### 編集後記

作品は、活用カコンテストのページからぜひご覧ください!

